

スポーツ交流と価値創造に関する実践研究

：「スポーツクロス」概念とスポーツ鬼ごっこの事例考察を通じて

(一般社団法人東京スポーツクロスラボ) 松尾泰範・平峯佑志・久保田淳・中島智

キーワード： スポーツクロス, スポーツ種目間交流, 社会課題解決, 価値創造

1, はじめに

一般社団法人東京スポーツクロスラボは、代表理事の久保田が、金融機関勤務を経て、JリーグクラブのFC東京での普及部長の経験などを基にして、スポーツのもたらす多面的な価値を深め、特にスポーツ以外の領域と連携することで価値創造を行うために設立された。本報告では、その活動理念である「スポーツクロス」という概念を取り上げ、多様なアクターによる社会課題解決や価値創造の可能性を探ってみたい。その際、設立メンバーがいずれもスポーツ鬼ごっこ（以下、鬼ごっこ）に関心を持ち、さまざまな形で関わってきたことから、鬼ごっこを事例として考察していく。

2, スポーツクロス概念の考え方

本報告では、スポーツとそれ以外の領域との連携を「スポーツクロス」概念と位置づけ、スポーツと他の異なる価値観とのクロス（領域横断的な交流）により起こるイノベーションをスポーツの多面的価値として評価する。

スポーツクロスとは、スポーツにより多くの人が参加できるように、その価値を多様な領域へ広げていくために必要な戦略でもある。それは、例えばサッカーと野球などスポーツ種目間交流だけを指すのではない。技術面では人工知能、社会保障面では医療、福祉、産業面では農業、飲食業といったさまざまな領域・業種業態とのクロス

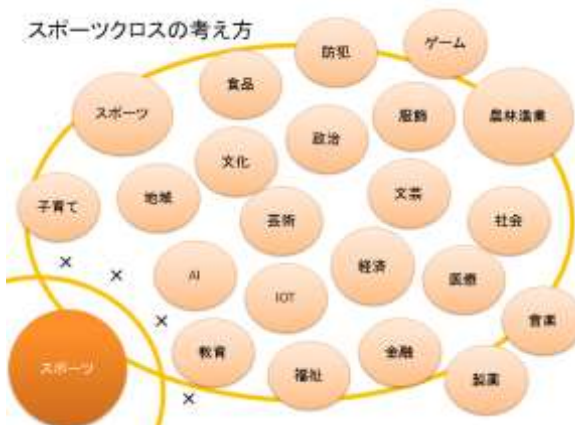
を推進していきたいと考えている。

図1：スポーツ交流の考え方

これまでのスポーツ交流の考え方



図2：スポーツクロスの考え方



3, 関連実践・研究

本テーマに到達するまでの関連実践としては、FC東京が毎年行っているファン感謝イベントを挙げることができる。鬼ごっこなどサッカー以外のスポーツを誘致し、積極的にスポーツ種目間交流を図っている。

一方、スポーツと異業種交流の効果につ

いては、研究蓄積が十分とはいえないが、諸学問分野で注目されつつある。岡本(2011)は、ツーリズムを活用したスポーツと地域の民間観光ステークホルダーとの交流の可能性を示唆している。今後、先行研究の精査の範囲を広げ、我々の議論を相対化する必要がある。

4. 鬼ごっこのスポーツクロス事例

(1) サッカーと鬼ごっこ

写真1：2018 キッズクラブフェスティバル (FC東京・2018年7月)



(2) 環境教育と鬼ごっこ

写真2：自然の宝探し鬼ごっこ in ゆうパークおごせ (2013年11月)



(3) 高齢者福祉と鬼ごっこ

写真3：神奈川県相模原市上鶴間公民館での高齢者向け鬼ごっこイベント (2012年7月)



5. 結論・今後の展望

余暇活動の多様化によって、必ずしもスポーツが日常生活において必要とされなくなってきた。しかし、そこに危機感を感じて、スポーツの現場にプレイヤーを集めることや、プロスポーツにファンを集めることに集中して、スポーツの良さを一方向的に伝えていくだけでは、価値観の押しつけに陥る。

今後は、ますますグローバル化が進み、民族、宗教、文化など多様な価値観を受け入れながら、共存・共生していく時代となるはずである。こうした中で、スポーツを介し、さまざまな物事とクロスしていくことは、相互理解に繋がり、新たな価値観の創出にも寄与するだろう。

引用・参考文献

【1】 岡本 純也 (2011) : 地域活性化策としてのスポーツ・ツーリズムの可能性 一橋大学スポーツ研究, 30: 61-66